

経営比較分析表（令和5年度決算）

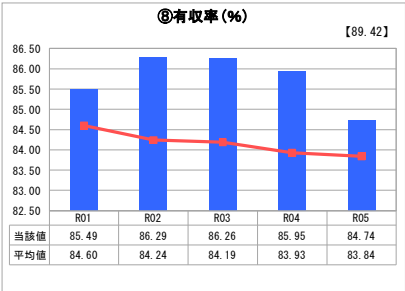
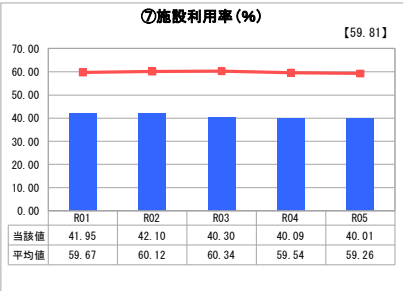
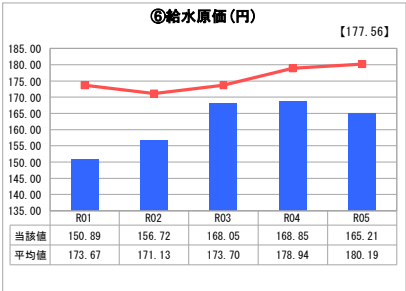
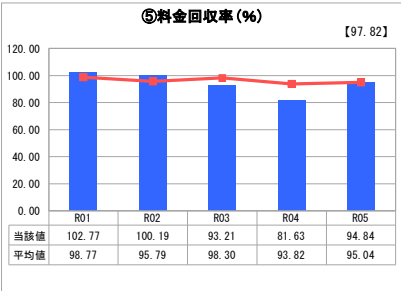
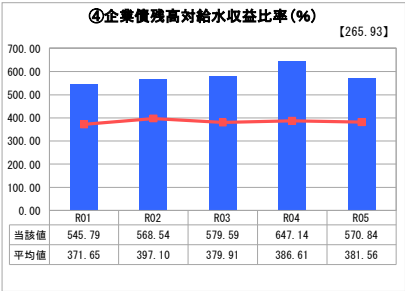
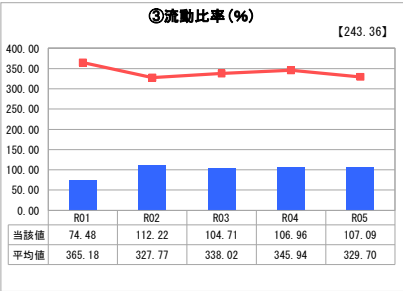
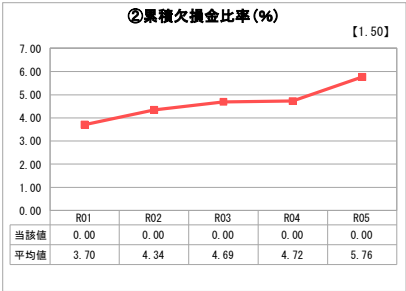
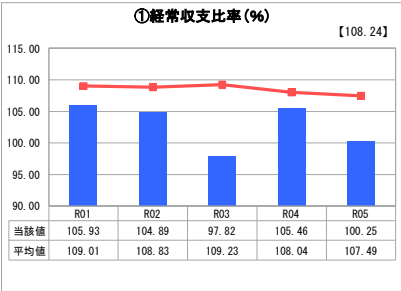
大分県 臼杵市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	54.94	93.16	2,990	

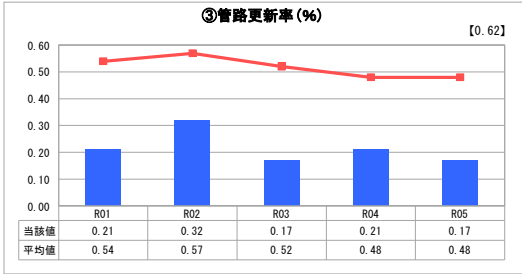
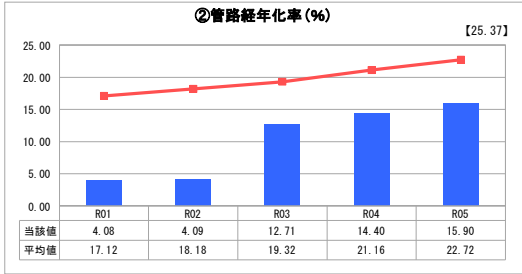
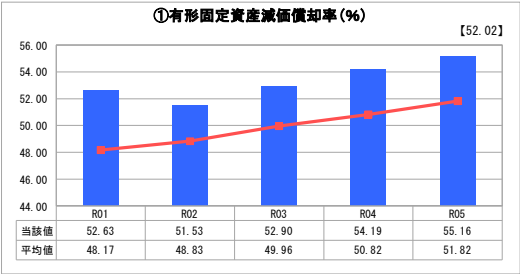
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,620	291.20	122.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
32,969	113.10	291.50

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①『経常収支比率』・・・経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標です。100%をわずかに上回っていますが、類似団体平均及び全国平均よりも低くなっています。給水収益の減少が見込まれるため、料金の見直しについて検討します。

②『流動比率』・・・流動負債に対する流動資産の割合で短期債務に対する支払能力を表す指標です。近年は数値が100%を超えていますが、類似団体平均より著しく低くなっています。現金残高に注視します。

③『企業債残高対給水収益比率』・・・給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。類似団体平均及び全国平均を大きく上回っています。今後も大型事業が継続されることから計画的な更新投資を行っていきます。

④『料金回収率』・・・給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄われているかを表す指標です。類似団体平均とほぼ同様の水準ですが、引き続き給水収益の確保と費用削減に努めます。

⑤『給水原価』・・・有収水量1㎡あたりについて、どれだけ費用がかかっているかを表す指標です。類似団体平均及び全国平均を下回っています。

⑥『施設利用率』・・・配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況判断する指標です。類似団体平均及び全国平均と比較しても低い水準にあります。今後施設のあり方について統廃合も含め検討が必要です。

⑦『有収率』・・・施設の稼働が収益につながるかどうかを判断する指標です。類似団体平均より9ポイント上回りましたが、全国平均を下回っています。今後も漏水対策等を行い有収率向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

①『有形固定資産減価償却率』・・・有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標です。平成30年度以降数値は上昇傾向で、他都市と同水準で施設の老朽化が進んでいる状況です。今後はアセットマネジメント計画に進み、老朽化した施設の更新や耐震化などの大型事業を計画的に行います。

②『管路経年化率』・・・法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標です。類似団体平均及び全国平均を下回っています。今後も計画的な管路の更新を行います。

③『管路更新率』・・・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標です。類似団体平均及び全国平均に比べて低い水準で推移しています。今後も計画的に更新していく必要があります。

全体総括

本市の水道事業は、給水人口の減少や節水型の生活様式への移行により、給水収益が減少しています。また、老朽化した管路からの漏水等、修繕にかかる費用も増加傾向にあり、助力費や資器材の高騰など様々な影響により、厳しい経営状況となっています。

また、類似団体平均や全国平均に比べ『企業債残高対給水収益比率』が高くなっています。しかし、今後も老朽化した施設や管路の更新、重要施設の耐震化等、施設改良費は多額になるとことから、企業債残高は増加していく見込みです。

こうした施設の更新計画や経営状況を踏まえ、令和5年度に「水道事業経営戦略」の見直しを行いました。厳しい経営状況の見込みとなった経営戦略に基づき、料金体系について検討を行う必要があります。また、施設更新を計画的に行い、適切な施設管理に努めるとともに、経営の合理化による歳入の削減に取り組んでいきます。